

振興トピックス

このコーナーでは、主に電源地域の地域活性化に向けたソフト事業の話題を取り上げています。今回は、佐賀県玄海町、島根県松江市、静岡県御前崎市、宮城県女川町の取り組みを紹介します。



現地見学会の様子



涌井雅之さんの基調講演



開会式では子供たちが太鼓の演奏を披露



分科会の様子

「全国棚田サミット」を 玄海町で開催

佐賀県玄海町
地図 A

『全国棚田サミット』とは、全国の棚田地域の住民、棚田のある市町村や棚田保全活動を実施・支援する団体や個人のネットワーク『全国棚田（千枚田）連絡協議会』が毎年開催している

ものです。21回目を迎える今年は、「共につたえよう美しく豊かな棚田（ふるさとを未来へつなぐ）」というテーマのもと、10月23日（木）と24日（金）の両日、佐

ポータルサイト (<http://www.matsue-hitomusubi.jp>)



片句こいグループのページ



昨年度から、島根大学6次化プロジェクトセンターと地域活性化サークルの学生を中心に「松江の魅力再発見プロジェクト」と結び」が始まっています。これは、「地元の魅力に改めて気付いてほしい」という思いか

ら、松江市に関わる様々な人々の魅力にスポットをあてて、島根大学の学生が取材・記事制作を行い、ポータルサイト (www.matsue-hitomusubi.jp) や Facebook で紹介しているというものです。この中では、ジャン

人と人を繋げる「松江の魅力再発見プロジェクト」と結び」

島根県松江市
地図 B

賀県・玄海町で開催されました。初日は、全国から集まった61名の参加者を前に、山口祥義^{のり}佐賀県知事が歓迎の挨拶を行い、「景観からみた日本の心」と題した造園家の涌井雅之^{のり}さんによる基調講演が行われました。

翌日は、「浜野浦の棚田」を組み込んだ4つのコースで見学会を行い、玄海町の葉草園の見学や、唐津市の「大浦の棚田」、「名護屋城跡」などを散策しました。

その後、3つの分科会に分かれて、棚田保全の必要性や農業経営、地域資源を活かした地域社会のあり方などについて活発な意見交換を行いました。

今回の『全国棚田サミット』では、「日本の棚田百選」に選ばれている同町の「浜野浦の棚田」を全国に発信するとともに、農業や地域の活性化のヒントを探る有意義なものとなりました。

ルを問わず、「食」、「ものづくり」、「自然」、「観光」、「アート」、「伝統」、「コミュニティ」、「エンターテインメント」など、農業や漁業で頑張る人々、飲食業やサービス業、一般企業で活躍する人々の、地域や産品への思いが語られています。

取材した「ひと」に、次の取

材先を紹介してもらいながら、繋がっていき、目標は松江市の人口と同じ20万人。松江中の人々を「ひと結び」できることを目指しています。

「ひと」を切り口にした地域の魅力を、再発見していかうという、こうした取り組みに注目が集まっています。

「夢咲牛ローストビーフハヤシ丼」が「全国ご当地どんぶり選手権」の予選会を突破

「御前崎市ご当地グルメ検討委員会」は、9月に東京ビッグサイトで開催された「全国ご当地どんぶり選手権」の予選会に

「夢咲牛ローストビーフハヤシ丼」を出品し、初出場にもかかわらず、平成28年1月に開催さ

れる本選出場を決めるという快挙を成し遂げました。

「遠州夢咲牛」は良質な脂と柔らかい肉質が特徴で、深みのある味わいで人気のブランド牛です。

このどんぶりは、その最高級の黒毛和牛である「遠州夢咲牛」のローストビーフと、御前崎市の自慢のごちそう「夢咲牛ハヤシライス」のソースを同時に味わえるもの。経済産業省の『地域のじま

んづくりプロジェクト』の一環として、御前崎市と市内の民間事業者が協働で手掛け、平成26年2月に発表されました。



「夢咲牛ローストビーフハヤシ丼」

「ご当地どんぶり選手権」は、平成28年1月8日(金)から17日(日)まで、東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京2016」で実施されます。

「ユニークで大胆!」と話題沸騰の「女川ポスター展」

宮城県女川町 地図

女川町のユニークで大胆なポスターが話題になっています。

河北新報社が推進している震災復興企画『今できることプロジェクト』の一環で行われたもので、東北を中心とした87人のク

静岡県御前崎市 地図

農林水産課の担当者は「どんぶりを食べていただいたお客さまから、高い評価を受け、本選への手応えを感じています」とのこと。

また「ご当地グルメ検討委員会」の増田委員長は、「夢咲牛のおいしさを全国に広め、一級品の自慢のごちそうが揃う『食欲解放区・御前崎』をPRしていきたい」と意気込んでいます。

なお、「第7回全国ご当地どんぶり選手権」は、平成28年1月8日(金)から17日(日)まで、東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京2016」

リエーターたちが、東日本大震災で多大な被害を受けた女川町を応援しようと、ボランティアで町内の商店や企業等のポスターを作りました。

42店舗、200点を超す作品のどれもが、店主の個性やストーリーが伝わるものばかり。復興に邁進する女川町の人たちの「心意気」が、センスの良いコピーや写真で表現されています。

平成27年2月21日から5月31日まで町内で開催された「女川ポスター展」では、「総選挙」として5ヶ所に投票所が設置され、海外からも含めて約1万6千票の投票が行われました。

その結果、第1位となったのは「ツイッター? やつてないけどどつぶ焼くよ。」という、店主の人柄を感じさせる『きぼうのかね商店街・串焼きたろう』のポスターでした。

そして第2位は、流行語をも

第2位になった『おかせい』の作品



じつた「壁ドン」より女川ドン」という「おかせい」のポスターに。このほかに

も、女川町民の今の気持ちを表わすコピーや、登場している女川町の人たちに、「会いにいきたいな」、「楽しそうな町だな」と思わせるものとなっています。

11月16日現在、『47CLUB』(www.47club.jp)で全ポスターを収録した「女川ポスター展全集」(¥1,000税込)が販売されており、「売れ筋第1位」となっています。この全集の収益金は全て、女川町に彩りを取り戻すために、「女川桜守りの会」に寄付されます。この機会に購入し、女川町を応援しませんか?

【お問い合わせ】今できることプロジェクト事務局(河北新報社営業局) ☎022-211-1318

第1位になった『きぼうのかね商店街・串焼きたろう』の作品

